巻末資料

千葉市のあゆみ（千葉市略年表）……178
千葉市の成り立ち……182
千葉市の概要……184
参考資料・文献……185

千葉市制100周年

千葉市のあゆみ

	西暦	元号	千葉市の主な出来事
明治	1873	明治6	千葉県誕生。県庁が千葉町に置かれる
	1874	明治7	共立病院（後の千葉大学病院）が有志の寄付により開院
	1889	明治22	寒川村、登戸村、黒砂村、千葉寺村と合併し、新たな千葉町発足
	1906	明治39	千葉電灯株式会社設立、千葉町に電灯がつく
大正	1921	大正10	1月1日市制施行により「千葉市」誕生
	1921	大正10	京成電気軌道の船橋～千葉間が開業し、押上まで開通
	1923	大正12	関東大震災発生、市内でも家屋に被害
	1926	**大正15**	**千葉開府800年祭開催**
昭和	1929	昭和4	千葉市歌制定
	1931	昭和6	千葉聯隊区司令部設置（椿森）
	1935	昭和10	誉田村の久保銀次郎、「千葉半立」の原種を発見
	1936	昭和11	県営水道、市内に給水を開始
	1939	昭和14	市立葛城病院開院（市立病院の前身）
	1940	昭和15	長洲に和風の市庁舎、谷津遊園から移築
	1940	昭和15	川崎町の埋め立て開始、1943年に日立航空機千葉工場進出
	1945	昭和20	千葉空襲（6月10日、7月7日）、中心市街地の約7割が焼失
	1946	昭和21	「戦災復興計画」立案、焼野原からの再建はじまる
	1949	昭和24	市営競輪が開始
	1951	昭和26	大賀一郎博士、検見川で約2000年前のハスの実を発見
	1953	昭和28	川崎製鉄千葉製鉄所（現JFEスチール（株）東日本製鉄所）の溶鉱炉の火入れ式挙行
	1954	昭和29	千葉港が国際貿易港となり正式開港
	1955	昭和30	糸川英夫博士が、日本初ロケット発射実験を開始
	1959	昭和34	東京電力千葉火力発電所完成
	1959	昭和34	市立千葉高等学校創立

共立病院は1876（明治9）年に公立千葉病院となる

大賀博士の調査で検見川から古代ハスの実を発見

川崎製鉄千葉製鉄所

	西暦	元号	千葉市の主な出来事
昭和	1960	昭和35	千葉公園に市営プール完成
	1961	昭和36	稲毛海岸の埋め立て開始
	1961	昭和36	千葉市中央卸(おろし)売市場が問屋町に開場
	1963	昭和38	長洲に市庁舎完成
	1963	昭和38	国鉄千葉駅が現在地に移転
	1963	昭和38	ダストボックス方式でのゴミ収集開始（1992年まで）
	1964	昭和39	東京オリンピック、クロスカントリーが東大検見川グラウンドで開催
	1966	昭和41	京葉道路が幕張まで開通
	1966	昭和41	船を利用した海洋公民館「こじま」開館（1998年解体）
	1966	昭和41	加曽利貝塚博物館が開館
	1967	昭和42	検見川海岸埋め立て開始
	1967	昭和42	郷土館が開館（1983年郷土博物館に名称変更）
	1967	昭和42	学校給食センターが完成、中学校の完全給食制を実施
	1968	昭和43	都賀駅が開業（千葉~成田間が電化）
	1969	昭和44	稲毛海浜ニュータウン事業に着手
	1970	昭和45	市庁舎が千葉港に移転、あわせて市制50年記念式典を挙行
	1970	昭和45	弁天地下道開通
	1972	昭和47	平和公園オープン
	1973	昭和48	旧国鉄千葉駅跡に「市民会館」オープン
	1973	昭和48	群馬県新治村に「高原千葉村」オープン（2019年廃止）
	1973	昭和48	第28回国民体育大会（若潮国体）開催
	1973	昭和48	第9回全国身体障害者スポーツ大会開催
	1974	昭和49	中央コミュニティセンター一部オープン
	1975	昭和50	昭和の森一部オープン
	1976	昭和51	千葉開府850年式典挙行
	1976	昭和51	わが国初の人工海浜「いなげの浜」オープン
	1976	昭和51	第1回千葉の親子三代夏祭り開催（以降、毎年開催）
	1977	昭和52	稲毛海浜公園プールオープン
	1979	昭和54	市立稲毛高等学校創立
	1979	昭和54	新中央卸売市場が高浜に開場
	1980	昭和55	京葉道路が全線開通
	1981	昭和56	いなげの浜に松の苗木6万本を植樹(しょくじゅ)（磯の松原づくり）
	1981	昭和56	幕張本郷駅開業
	1982	昭和57	東関東自動車道が首都高速湾岸線と接続

埋め立て工事の風景（寒川海岸）

復興計画に基づき、千葉駅周辺を整備

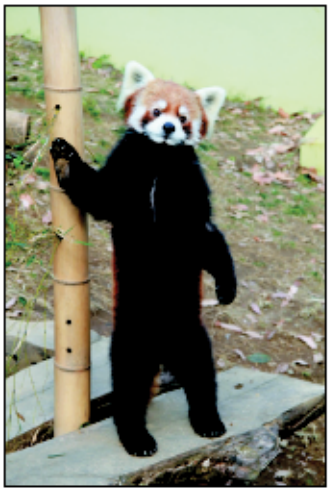
未来を見つめ整備が進む海浜ニュータウン（稲毛海岸駅周辺）

稲毛海浜公園プールといなげの浜

	西暦	元号	千葉市の主な出来事
昭和	1982	昭和57	稲毛海浜公園内にヨットハーバーオープン
	1984	昭和59	市立海浜病院開院
	1985	昭和60	千葉市動物公園開園
	1986	昭和61	国鉄京葉線（千葉みなと～西船橋間）開通（現JR京葉線）
	1986	昭和61	千葉ポートタワーオープン
	1987	昭和62	千葉県東方沖地震（千葉市で震度5を観測）で大きな被害
	1988	昭和63	千葉都市モノレール開業（スポーツセンター～千城台間）
	1988	昭和63	国際千葉駅伝開催（第1回）
平成	1989	平成元	「平和都市」を宣言
	1989	平成元	日本コンベンションセンター（幕張メッセ）オープン
	1990	平成2	千葉マリンスタジアムオープン
	1990	平成2	泉自然公園のサクラ「日本のさくら名所100選」に選定
	1991	平成3	千葉ポートアリーナオープン
	1991	平成3	千葉都市モノレールがJR千葉駅に乗り入れ
	1991	平成3	ロッテマリーンズの本拠地が千葉マリンスタジアムに決定
	1992	**平成4**	**全国12番目の政令指定都市としてスタート**
	1992	平成4	千葉急行、千葉中央～大森台間開業（現京成千原線）
	1992	平成4	ごみの5分別収集スタート
	1995	平成7	家庭ごみ指定袋制度スタート
	1995	平成7	千葉急行線がちはら台まで延伸開業
	1995	平成7	千葉市美術館がオープン
	1996	平成8	花の美術館オープン
	1997	平成9	千葉市ゆかりの家・いなげオープン
	1998	平成10	花島公園オープン
	1998	平成10	千葉市美術館・中央区役所が「公共建築百選」に選定
	1999	平成11	矢作トンネル開通
	1999	平成11	千葉都市モノレール千葉駅～県庁前駅間が開通し、全線開通
	2000	平成12	千葉都心イルミネーション「ルミラージュちば」点灯
	2001	平成13	中央図書館・生涯学習センターオープン
	2003	平成15	ジェフユナイテッド市原のホームタウン広域化が決定
	2003	平成15	市立青葉病院が開院
	2005	平成17	蘇我臨海部地区のまちびらき「ハーバーシティ蘇我」がオープン
	2005	平成17	千葉市動物公園のレッサーパンダ「風太くん」が立ち姿で全国的な人気
	2005	平成17	フクダ電子アリーナがオープン

幕張メッセのオープニングセレモニー

2000年から続く千葉都心イルミネーション「ルミラージュちば」



立ち姿で人気を博した千葉市動物公園のレッサーパンダ・風太

	西暦	元号	千葉市の主な出来事
平成	2005	平成17	アクアリンクちばがオープン
	2005	平成17	千葉ロッテマリーンズが日本シリーズ優勝、優勝パレードを実施
	2005	平成17	ジェフユナイテッド千葉がヤマザキナビスコカップ優勝
	2007	平成19	県内初の公立中高一貫校として稲毛高等学校附属中学校開校
	2007	平成19	官民複合施設きぼーる、千葉市科学館グランドオープン
	2008	平成20	市民ゴルフ場/下田農業ふれあい館がオープン
	2009	平成21	「脱・財政危機」宣言
	2010	平成22	全国初のツイッターによる市民と市長の対話会実施
	2011	平成23	東日本大震災が発生、市内でも液状化などで大きな被害
	2014	平成26	家庭ごみ手数料徴収制度を開始
	2015	平成27	幕張海浜公園でレッドブル・エアレースが日本初開催
	2016	平成28	東京圏国家戦略特別区域の一部に指定
	2016	平成28	JR千葉駅舎リニューアルオープン
	2016	平成28	千葉みなと旅客船さん橋・旅客船ターミナル等複合施設「ケーズハーバー」がオープン
	2016	平成28	第1回千葉氏サミット開催
	2017	平成29	市民総合窓口課によるワンストップサービス開始
	2017	平成29	「脱・財政危機」宣言の解除
	2017	平成29	加曽利貝塚が貝塚として初の特別史跡に指定
	2018	平成30	千葉常胤生誕900年記念騎馬武者行列
	2019	平成31	「パートナーシップ宣誓証明制度」を開始
令和	2019	令和元	房総半島台風で大きな被害、千葉市で最大瞬間風速57.5m（観測史上1位）
	2021	**令和3**	**1月1日に市制施行100周年**
	2026	令和8	千葉開府900年

東日本大震災では千葉市内でも液状化現象など多くの被害が出た

加曽利貝塚が貝塚として国内初の特別史跡に

房総半島台風で屋根が飛散した稲浜小学校屋内運動場

市制百年

千葉市の成り立ち

千葉市の誕生と町村合併の歴史

3万5千年前の旧石器時代には、千葉市のあたりに人が生活していたということが、発掘調査などで明らかになっています。

この地がいつから「チバ」と呼ばれていたのかは、はっきりしませんが、すでに奈良時代には千葉郡がありました。そして平安時代末期の1126（大治元）年、千葉常胤の父・平常重が亥鼻付近（県庁の周辺）に館を移したところから、千葉の都市としての歴史がはじまりました。

戦国時代に千葉氏は居城を本佐倉城（酒々井町・佐倉市）へと移しましたが、千葉のまちはその後も門前町・宿場町・港町としてにぎわいました。

1873（明治6）年6月15日に千葉県ができると、千葉町に県庁が置かれ、県政と経済の中心となりました。

千葉町は1921（大正10）年1月1日に市制施行により、千葉市として新たな一歩を踏み出しました。当時の市の面積は約15平方キロメートル、人口約3万4千人でした。その後、千葉医科大学附属病院や下志津陸軍飛行学校（当時の都村、現若松町）などが設置されるとともに、交通・通信の近代化が進み、近代都市として発展していきました。

太平洋戦争がはじまると度重なる空襲の被害にあいました。なかでも1945（昭和20）年6月10日と7月7日の空襲（「七夕空襲」と呼ばれる）では、中心市街地の約7割を焼失し、尊い人命と多くの歴史的建造物を失いました。

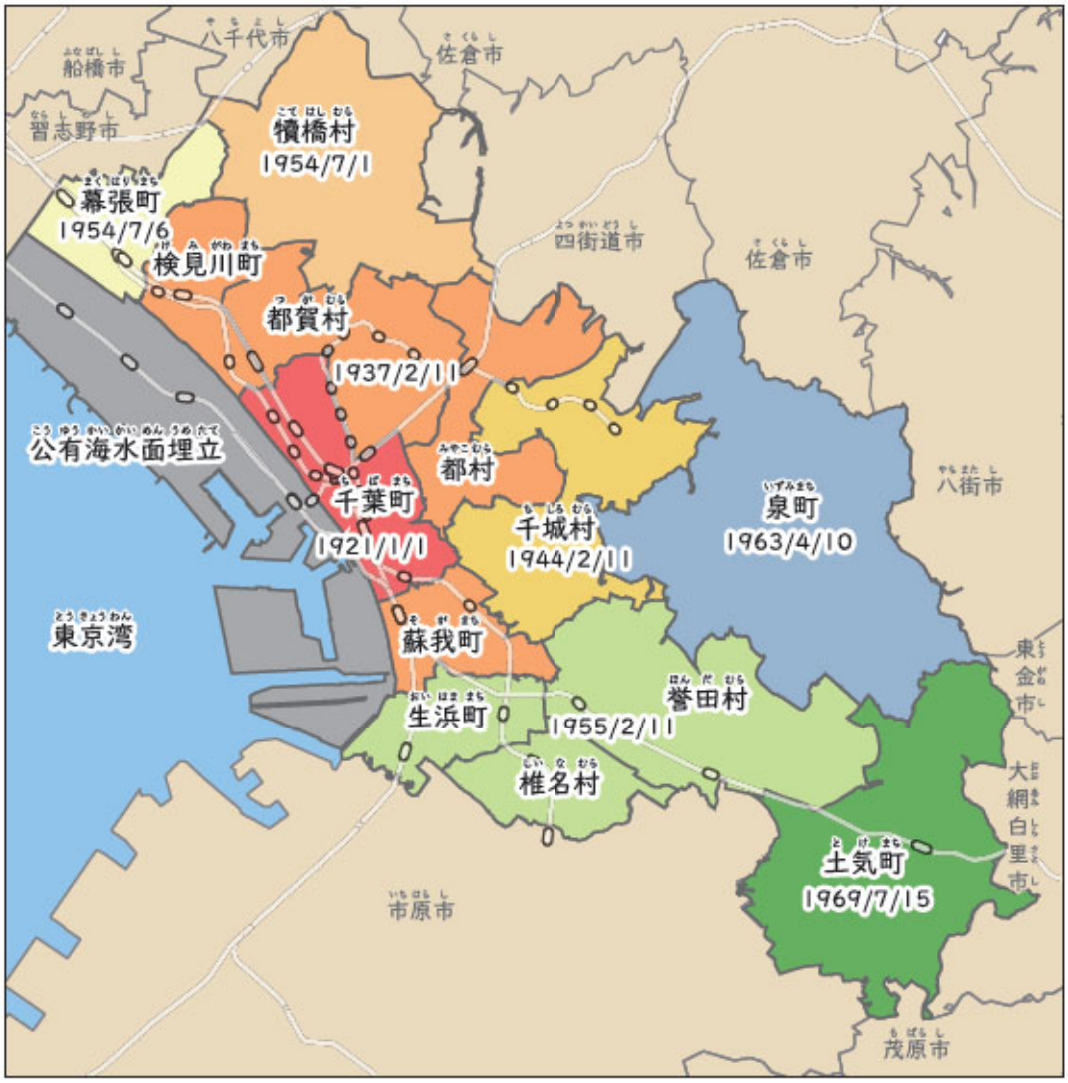
しかしながら、市民は力強く復興に立ち上がり、戦災復興事業に着手するとともに、新たな街づくりとして臨海部への企業誘致や、千葉港の整備を進めるなど、消費都市から生産都市への転換を図りました。

そして、近隣町村との合併や埋立により、市域を拡大するとともに、臨海部の開発、大規模住宅団地の建設、内陸工業団地の造成を進めながら、快適な生活環境づくり、バランスのとれた都市づくりを進め、1992（平成4）年4月1日には、全国12番目の政令指定都市へと移行しました。

市章

千葉市章は、千葉のまちの開祖である千葉氏の紋章のひとつである月星と千葉の「千」を組み合わせたものです。1921（大正10）年に市制施行を記念して本市の市章としました。

■千葉市の成り立ち（町村合併の経過）＊面積は千葉市集計面積



西暦	和暦	合併町村等	面積
1921	大正10	市制施行時	15.22㎢
1937	昭和12	検見川町、都賀村、都村、蘇我町	66.88㎢
1944	昭和19	千城村	86.33㎢
1954	昭和29	犢橋村	107.24㎢
1954	昭和29	幕張町	117.24㎢
1955	昭和30	生浜町、誉田村、椎名村	158.81㎢
1963	昭和38	泉町	210.84㎢
1969	昭和44	土気町	249.68㎢
2021	令和3	現在	271.78㎢

市制百年

千葉市の概要

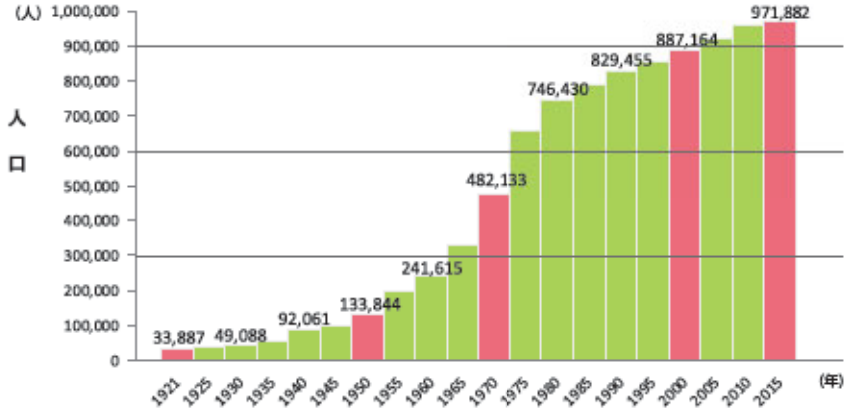
千葉市は、東経140度7分・北緯35度36分、西部は東京湾に面し、千葉県のほぼ中央部に位置しています。緑豊かな下総台地、都川流域の平野、遠浅の海を埋め立ててできた平地からなります。

市域は約271.8平方キロメートルで、中央区・花見川区・稲毛区・若葉区・緑区・美浜区の6区の行政区に分かれています。

年間平均気温は17.2度、年間降水量は1261ミリメートル（2018年）。温暖な気候と肥沃な土地にめぐまれ、都市でありながら豊かな緑と水辺をあわせもっています。

首都東京と成田空港の中間という立地の良さ、高速道路、県内幹線道路、JR・私鉄・モノレールの鉄軌道、市内をめぐるバス路線網は、県都にふさわしい利便性を兼ね備えています。

■千葉市の人口推移



	1921(大正10)年	1950(昭和25)年	1970(昭和45)年	2000(平成12)年	2015(平成27)年
市域面積	15.22㎢	83.70㎢	248.07㎢	272.08㎢	271.76㎢
人　口	33,887人	133,844人	482,133人	887,164人	971,882人
世帯数	6,918世帯	28,228世帯	136,241世帯	348,159世帯	417,857世帯
1世帯平均人数	4.9人	4.7人	3.5人	2.5人	2.3人
小学校数	7校	16校	54校	119校	114校
小学校児童数	4,492人	17,751人	41,968人	47,494人	50,778人
就業者数	－	48,255人	219,229人	434,594人	430,638人
就業者割合	－	36.1%	45.5%	49.0%	43.9%
就業者数(男)	－	32,346人	152,991人	267,813人	246,567人
就業者数割合(男)	－	67.0%	69.8%	61.6%	57.3%
就業者数(女)	－	15,909人	66,238人	166,781人	184,071人
就業者数割合(女)	－	33.0%	30.2%	38.4%	42.7%

参考資料・文献

貝塚の守り人　悠久の宝を未来へ

- 武田 宗久
「加曽利貝塚の発掘と現状について」
『日本考古学協会第29回総会発表要旨』1963
- 武田 宗久
「世界的な文化財を守ろう―加曽利貝塚の意義と保存対策」房総史学5号1964
- 武田 宗久
「加曽利貝塚の意義と保存対策」貝塚博物館紀要創刊号1968
- 千葉市教育委員会
『史跡加曽利貝塚保存活用計画書』2017

民間航空発祥の地　自由な空を求めて

- 『伊藤音次郎日記　1916（大正5）年』
一般財団法人日本航空協会1966
- 伊藤 音次郎
「奈良原三次氏と鳳号」、「稲毛飛行場の生い立ち」『日本民間航空史話』一般財団法人日本航空協会
- 小池 淳達
「稲毛に飛んだヒコーキ野郎」『カルチャー千葉第4号』千葉市1983
- 川村 優
「伊藤音次郎」『房総人物伝』崙書房2012

千葉に息づく医の先駆者たち

- 石井 暉二
「郷土に輝く人々7 井上善次郎の生涯 わが国初のジストマ病究明」
『カルチャー千葉第8号』千葉市文化振興センター1985
「郷土に輝く人々4 BCG導入に尽力近代内科医の先達 柏戸留吉」
『カルチャー千葉第5号』千葉市文化振興センター1984
- 「井上善次郎」、「柏戸留吉」、「花岡和夫」
『千葉市に輝く人びと』千葉市教育委員会1970
- 『千葉大学医学部内科学第二講座開講100周年記念誌』
千葉大学医学部内科学第二講座同門会1999
- 川村 優
「歴史風土記39 柏戸留吉」『カルチャー千葉第43号』千葉市文化振興センター2001
- 『井上記念病院創立100周年記念誌』
医療法人社団普照会井上記念病院2016

焼け野原から立ち上がる女性たち

- 『母子福祉会館落成記念 十年のあゆみ』
財団法人千葉県未亡人連合会1960
- 「沼田多美」
『千葉市に輝く人びと』千葉市教育委員会1970
- 石井 暉二
「婦人活動の先駆者 沼田多美」『カルチャー千葉第4号』千葉市1983
- 為我井 静枝
『沼田多美回想録』千葉県母子寡婦福祉連合会1985

日本の高度経済成長を支えた鉄人

- 『川崎製鉄五十年史』 川崎製鉄株式会社 2000
- 黒木 亮
『鉄のあけぼの』 毎日新聞社 2012
- 『第12回口頭弁論調書（和解）』
千葉川鉄公害訴訟資料 S23-013004 立教大学共生社会研究センター所蔵
- 千葉川鉄公害訴訟原告弁護団
『昭和50年（ワ）第322号 昭和53年（ワ）第275号 千葉川鉄公害訴訟（あおぞら裁判）原告最終準備書面』
- 朝生 邦夫
『大気汚染訴訟 あおぞら裁判 追いつめられた川鉄公害』 合同出版 1991

時を超え、情熱が咲かせた奇跡の花　オオガハス

- 『大賀一郎』
『千葉市に輝く人びと』 千葉市教育委員会 1970
- 森田 保
『世界のハス博士・大賀一郎』『カルチャー千葉 第3号』 千葉市花園センター 1983
- 『大賀ハス』
千葉市立郷土博物館 1988
- 神戸 淳吉
『まぼろしの花がさいた』 くもん出版 1988

遠浅の記憶と海辺の復活

- 『稲毛海浜ニュータウンのあゆみ』
千葉市 1984
- 『千葉市の海辺 ～遠浅のうみ 豊かなめぐみ～』
千葉市・千葉市教育委員会 2020
- 『特別展 海と千葉 ―海とともに歩んだ歴史―』
千葉市立郷土博物館 2020

世界のモノ・ヒトが集まる幕張メッセプロジェクト

- 『新しい房総を拓く ―千葉新産業三角構想―』
千葉県 1984
- 『幕張メッセ 幕張新都心のすべて』
千葉日報社 1988
- 『幕張メッセ・建設工事の記録』
千葉県企業庁 1990
- 『株式会社日本コンベンションセンター10周年記念誌』
日本コンベンションセンター 1996

市の木 ケヤキ

1993年4月29日制定。端正で雄大な姿のケヤキは、本市の保存樹林として本数が一番多い木です。

市の花木 キョウチクトウ

1970年1月制定。インド原産で、夏に紅色や白の美しい花を咲かせます。

市の鳥 コアジサシ

1993年4月29日制定。春から秋にかけて海岸で繁殖する渡り鳥。カモメの仲間で希少種とされています。

市の花 オオガハス

1993年4月29日制定。検見川で発掘された古代ハスの実を大賀一郎博士が発芽・育成したものです。

千葉市制100周年記念漫画

百の歴史を、千の未来へ

2021年1月　初版発行

企画・発行　千葉市総合政策局総合政策部
都市アイデンティティ推進課
〒260-8722　千葉市中央区千葉港1番1号
TEL：043-245-5660

制　作　株式会社サード・ライン
株式会社 文化工房

この冊子は史実にもとづき、さまざまな資料を総合的に判断して作成しておりますが、漫画的演出を含んでおります。
本書の一部または全部について、無断転載・複製を禁じます。